

令和元年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会総会

日時：令和2年1月31日（金）

午後1時15分～午後2時15分

場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

- (1) 第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について（資料1）

4 議 題

(1) 議案第1号

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画（案）について（資料2）

(2) 議案第2号

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催要項（案）について（資料3）

(3) 議案第3号

令和元年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会補正予算について（資料4）

5 その他

- (1) 今後の日程について（資料5）

- (2) その他

6 閉 会

令和元年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会総会 出席者名簿

役 職	所属・役職名	氏名（敬称略）	出欠	備考
会 長	鳥取県知事	ひらい しんじ 平井 伸治	出	
委 員	一般財団法人全日本ろうあ連盟 事務局長	ひさまつ みつじ 久松 三二	出	
	日本財団 理事長 （同 公益事業部 部長）	おがた たけしゅ 尾形 武寿 いししい やすのぶ （石井 靖乃）	出 （代理）	
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 理事長	しもがき あきのり 下垣 彰則	出	
	鳥取県商工会議所連合会 会長	こじま しやうご 児嶋 祥悟	出	会長就任に伴い R元年12月に委 員就任
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部 支部長 （同 運営委員）	さわだ ひろこ 澤田 敬子 くにひろ いさよ （国広 生久代）	出 （代理）	
	鳥取県教育委員会 教育長	やまもと ひとし 山本 仁志	出	
	鳥取県福祉保健部長兼ささえあい福祉局長	みやもと のりあき 宮本 則明	出	企画推進会議委 員長
事務局	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 課長	たに しゅんすけ 谷 俊輔		
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 社会参加推進室長	おおた じろう 太田 次郎		
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 課長補佐	きたがわ やすこ 北川 泰子		
	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 係長	おおもり こうじ 大森 宏治		



第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

1 大会の概要

- (1) 開催日時 令和元年9月29日(日) 午前9時30分から午後4時まで
 (2) 開催場所 とりぎん文化会館 梨花ホール(鳥取市尚徳町101番地5)
 (3) 演技内容 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コントなどのパフォーマンス
 (4) 出場チーム 予選通過15チーム(19校) ※うち田園調布学園高等部が欠場(14チームが演技)
 (5) 来場者数 約2,000人
 (6) 大会結果

表彰内容	チーム名	演技区分	演技タイトル	得点
優勝	真和志高等学校(沖縄県)	ダンス・演劇	ラップ THE オキナワ	273点
準優勝	奈良県立ろう学校(奈良県)	演劇	ユールネバーウォークアローン	266点
第3位	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園(埼玉県)	演劇、ポエム、コント	手話は命 ～ろう者の星と聴者の星～	264点
審査員特別賞	田鶴浜高等学校(石川県)	歌唱・演劇	全てを笑顔で守りたい	—
全日本ろうあ連盟賞	聖心学園中等教育学校(奈良県)	ダンス	This Is Me ～すべての人へ～	—
日本財団賞	米子東高等学校(鳥取県)	ダンス・演劇	結び ～HANDSIGN～	—
鳥取県聴覚障害者協会賞	熊本聾学校(熊本県)	演劇	レッツスポーツ 世界は一つ!	—

※上記以外の本大会出場チームに、手話パフォーマンス奨励賞を授与

《優勝：真和志高等学校》



《準優勝：奈良県立ろう学校》



《第3位：坂戸ろう学園》



《日本財団賞：米子東高等学校》



(7) 出演者等

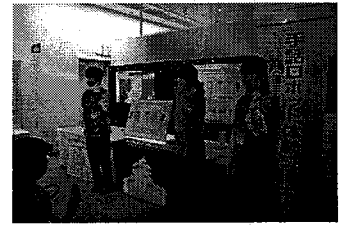
内容	氏名(敬称略)	所属等
総司会	原田 裕和	NHK鳥取放送局チーフアナウンサー
演技司会	早瀬 憲太郎	学習塾「早瀬道場」塾長
	河口 真里奈	鳥取敬愛高等学校3年
審査員長	庄崎 隆志	演出家・俳優
審査員	小中 栄一	全日本ろうあ連盟副理事長
	廣川 麻子	NPO法人TA-net 理事長
	門 秀彦	絵かき
	野上 まり	福岡ろう劇団博多
	塩野谷 斉	鳥取大学地域学部教授
ゲスト	劇団あしたの会	ろう者と聴者が共に楽しめる演劇を制作



演技司会の早瀬氏と河口さん

(8) 会場内の催し

- あいサポート・マルシェ (障がい福祉サービス事業所の飲食等販売)
- 鳥取聾学校写真作品展
- 県内高校生による実習製品等の販売コーナー
- 県内高校生による郷土芸能ステージ (しゃんしゃん傘踊り)
- 手話ロボット体験コーナー (追手門学院大手前中・高等学校)
- 手話パフォーマンス甲子園カフェ
- 手話パフォーマンス甲子園弁当、公式グッズの販売など



手話ロボット体験コーナー

2 佳子内親王殿下の御臨席

佳子内親王殿下の御臨席を賜り、開会式では、手話の普及に向けた取組に係る関係者の尽力への敬意、これまでも大会に出席するたびに高校生の熱意溢れる舞台に深い感銘を受けられてきたことなどのおことばを賜った。また、全出場チームの演技を御覧いただいたほか、大会前日の交流会にも御臨席を賜り、出場チームの代表生徒と御歓談いただいた。



開会式でのおことば

3 その他

- ・大会の様子を公式動画チャンネル (You Tube) にて、当日ライブ配信。
- ・障がいのある方などを対象にホール内前方にハートフル席を設置。
- ・情報保障として、手話通訳、要約筆記、音声ガイドを提供。
- ・大会前日の9月28日 (土) にホテルニューオータニ鳥取 鶴の間にて、出場チーム、来賓・関係者等が出席する交流会を開催。



交流会

【大会成果】

(1) 大会への参加により、高校生世代の手話言語への理解・関心が拡大

○第1回大会から第6回大会まで36都道府県から延べ335校 (延べ約2,860人) が参加

区分	第1回大会	第2回大会	第3回大会	第4回大会	第5回大会	第6回大会
参加申込チーム数(学校数)	41チーム(41)	47チーム(50)	61チーム(65)	54チーム(55)	62チーム(65)	57チーム(59)
都道府県数	21都道府県	22都道府県	30都道府県	27都道府県	28都道府県	25都道府県
参加生徒数	365名	386名	536名	487名	559名	529名

(2) 県内外に大会や手話について情報発信

- 大会に県内外から多数の来場をいただき、幅広い世代に手話言語への理解が拡大
- 全国・地方のメディアに取り上げられ、大会認知と手話言語への理解が拡大

県内各新聞、各出場校の地元新聞、キー局テレビ (ZIP!、めざましテレビ等)、NHK (Eテレ) 「ろうを生きる難聴を生きる」など

(3) きこえない人ときこえる人との交流の拡大

- 特別支援学校との合同チーム参加により、大会を通じて、障がいを超えた高校生同士の交流が拡大

立川ろう学校・大泉桜高等学校 (東京都)、広島南特別支援学校・トリガム清心高等学校 (広島県)、済美高等学校・松山聾学校 (愛媛県)

- 大会参加を契機に、高校生と各種団体等との新たな交流が生まれている

聴覚障がい者協会や手話サークル等による高校生への手話指導等

(4) 大会以降も手話パフォーマンスの輪が拡大

- 大会後に出場チームが地元イベント等で手話パフォーマンスを披露する等、全国各地に手話パフォーマンスの輪と手話への理解・関心が拡大

(5) 高校生による大会づくり

- 演技司会や運営ボランティア等に多くの地元高校生が携わり、高校生による大会づくりが進展。

第 6 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 出場生徒・来場者の感想 (抜粋)

■ 出場生徒の感想

- ・手話の大切さを、より実感し、もっと手話の大切さを広めていきたいと思いました。
- ・今まで手話を身近に感じたことがなかったけれど、もっと手話について知りたいと思うきっかけになりました。
- ・交流会など、手話を通して、普段は会う機会がない県外の人と手話友になれて良かったです。
- ・聞こえる人も聞こえない人もお互いに応援しあって、とても温かい雰囲気での大会でした。鳥取県民の 1 人として、誇りに思います。
- ・手話パフォーマンス甲子園で手話が大切な言語であると改めて認識したし、もっとたくさんの人に手話の魅力を知ってもらうために、この甲子園がずっと続いてほしいと思います。
- ・他の生徒たちのパフォーマンスを見て、すごく感動したし、衝撃を受けました。
- ・大会のおかげで交流の輪が広がり、自分の手話のレベルや技術が上がったと思う。大会を通して手話を改めて学ぶことができた。
- ・佳子様にお会いできたことを大変光栄に思います。

■ 来場者の感想

- ・とても感動しました。毎年見に来たいと思います。
- ・初めて見させていただきましたが、自分の子供たちと変わらないくらいの高校生が、聴こえる、聴こえないにかかわらず、一生懸命パフォーマンスで多くの人たちに自分たちの想いを伝える姿に感動して涙が出ました。
- ・皆、一生懸命。感動しました。今の問題や社会の出来事も盛り込みすばらしい構成と内容だった。
- ・毎年、本当にすごく力（パワー）をもらっています。高校生のボランティアがとても良かったです。
- ・聴覚障害の生徒さんだけでなく、健常の生徒さんとの合同発表等障害を越えたパフォーマンスに感動。
- ・このような福祉行政は本当に人々を幸福にする。とっとり県サイコウ！
- ・午前のみのもりだったが全日観覧した。高校生たちが誰にでもわかりやすいように表現する気持ちや演技に魅了され、涙が止まらなかった。
- ・ろう者の方の生の声をきくことができ、知ることがたくさんあった。もっと交流して、私もろうの方のことを知りたいと感じた。同じように話せる社会が実現するとういいなと思った。
- ・手話に興味を持った。
- ・年々洗練された進行・演出でした。今日の司会進行のように高校生がどんどん活躍してほしいです。
- ・高校生の演技が本当にすばらしく感動しました。これからもずっと続けてください。
- ・手話に興味を持ち手話を使って何かを表現したいと思っている若者がいるということがうれしい。



第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画（案）

1 目的

ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。

2 主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

3 共催

鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

4 特別協賛

日本財団

5 特別協力

一般財団法人全日本ろうあ連盟

6 後援（予定）

内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

7 開催日及び場所

(1) 本大会

ア 開催日 令和2年9月27日（日）

イ 場所 倉吉未来中心 大ホール（鳥取県倉吉市駄経寺町 212-5）

(2) 交流会

ア 開催日 令和2年9月26日（土）

イ 場所 鳥取看護大学・鳥取短期大学シグナスホール（鳥取県倉吉市福庭 854）

(3) 予選審査会・結果発表

ア 開催日 令和2年7月30日（木）、31日（金）

イ 場所 鳥取県庁

8 参加募集

令和2年5月18日（月）から7月3日（金）まで ※予選審査動画の提出期限：7月17日（金）

9 参加資格

高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）・特別支援学校高等部・高等専門学校（3年生まで）・専修学校及び各種学校の修業年限が高等学校と一致している生徒（校長の推薦書が必要）

10 演技内容

手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才など

（予選審査：3分以内、本大会：6分以上8分以内）

11 本大会出場チーム

予選審査を通過した15チーム

①地方ブロック枠：6チーム、②得点順枠：6チーム、③合同チーム枠：1チーム、

④初出場枠：1チーム、⑤開催地枠：1チーム から選出

12 表彰

優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞、手話パフォーマンス奨励賞を授与する。

13 審査

(1) 予選審査会

ア 審査方法

演技動画視聴（3分以内）による審査を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、本大会出場チームを決定する。

イ 審査員

4名（聞こえる人2名、ろう者2名）

(2) 本大会

ア 審査方法

ステージ演技（6分以上8分以内）による審査を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、各受賞チームを決定する。

イ 審査員

6名（聞こえる人3名、ろう者3名）

14 本大会及び交流会の内容

(1) 本大会

ア 時間（予定）

午前9時30分から午後4時まで

イ プログラム

- 1) 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介等）
- 2) 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり6分以上8分以内）
- 3) ゲストパフォーマンス
- 4) 審査結果発表・表彰式
- 5) 閉会

(2) 交流会

ア 時間（予定）

午後6時から午後8時まで（午後7時30分から午後8時までは高校生同士の交流時間とする）

イ 参加者

出場チーム（生徒・引率者）、出演者（司会、審査員等）、来賓、実行委員会関係者等

ウ プログラム

- 1) 関係者挨拶、乾杯
- 2) 歓談
- 3) 出場チーム抱負 等

15 その他

- ・大会の裾野の拡大やレベル向上を図るため、これまで予選を通過したことのない学校を対象に、手話及び演技についてアドバイスできる者（手話パフォーマンスアドバイザー）を希望する学校に抽選で派遣する
- ・ろう者とろう者以外の者との交流促進のため、大会への参加が、学校と各都道府県聴覚障害者協会との交流の契機となるよう、参加申込みした旨を学校から協会へ情報提供することを推奨する
- ・大会に関わることにより手話への理解・関心を広めるため、高校生の大会運営等への参加を進める



第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 開催要項 (案)

1. 目的 ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。

2. 大会概要

(1) 大会名 第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 (以下「本大会」という。)

(2) 日時 令和2年9月27日(日)

午前9時30分から午後4時まで(時間は予定)

(3) 会場 倉吉未来中心 大ホール(鳥取県倉吉市駄経寺町212-5)

(4) 出場 予選審査を通過した15チーム

(5) 内容 以下のとおり

- ①開会式(関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介)
- ②出場チーム演技(演技時間:1チーム当たり6分以上8分以内)
- ③ゲストパフォーマンス
- ④審査結果発表・表彰式
- ⑤講評・閉会

3. 主催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会

4. 共催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

5. 特別協賛 日本財団

6. 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟

7. 後援 (予定) 内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、公益社団法人全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

8. 参加資格

(1) 令和2年度に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)、特別支援学校高等部、高等専門学校(3年生まで)、専修学校及び各種学校(修業年限が高等学校と一致している生徒に限る。)に在籍していること。

(2) 本大会に参加することについて、校長の承認が得られていること。また、参加する生徒について、校長の推薦が得られていること。

(3) 本大会への参加に当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること。

(4) 原則として、本大会の全日程及び本大会前日のリハーサル及び交流会に参加できること。

9. チーム編成

1チームの編成は、同一校又は複数校で編成するチームの生徒及び引率者とし、生徒は演技者の他、演技の補助者や必要に応じてチームの介添え者を含めることとする。人数は最大で生徒20人以内、引率者10

人以内とし、予選参加者は原則として本大会に出場できる生徒とする。ただし、予選審査後に生じたやむを得ない事情等がある場合は、本大会に出場する生徒を変更（若干名の増減）できるものとする。

同一校からの複数チームの参加申込みは可能とするが、本大会に出場できるのは予選審査で同一校中、最上位のチームのみとする。なお、同一メンバーで複数チームの参加は認めない。

10. 演技内容等

- (1) 手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話言語を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。なお、審査基準としては、必ずしも音（音声や音楽など）を用いる必要はないことを申し添える。
- (2) 本大会での演技時間は、6分以上8分以内とする。なお、予選審査会においては、3分以内の動画を提出するものとする。
- (3) 演技スペースは、概ね間口10メートル、奥行5メートルの範囲とする。なお、演技中に演技スペースから舞台袖への出入りは可能とする。
- (4) 情報保障の観点から、演技中、歌詞やセリフ等には字幕を必ず表示させること。字幕は、予選審査動画においては映像の中に、本大会においては演技スペース後方に設置するスクリーンに表示させること。なお、本大会の演技中は、主催者側で歌詞やセリフ等の要約筆記等を行わない。
- (5) 舞台上での演技（音声によるナレーション等の演技補助を含む）は全て生徒が行うこととし、字幕表示、音響・照明のキュー出し等、演技以外の舞台進行に係る作業は生徒が主体的に行うよう努めること。
- (6) 演技の補助として、簡素な小道具、舞台装置、背景、スクリーン等のみ使用を認める。（概ね1分以内に準備が完了できるものに限る）なお、演技で使用する小道具等及び会場にない設備（特殊な照明や音響等）を使用する場合は、原則として各チームにおいて用意すること。なお、これらの使用については、本大会前に舞台監督と詳細を打ち合わせすること。
- (7) スクリーンに表示する内容について、字幕の他、演技のイメージを伝える画像の使用は認めるが、動画の使用は認めない。なお、著作権が発生する画像等をスクリーンに表示させたい場合は、著作権を侵害することのないよう自チームにて会場、ライブ配信及び大会後の公開映像での当該画像等の使用について、全て著作権者の許可を得ること。なお、このことから、可能であれば自チームで制作した著作権の発生しない画像等を使用することが望ましい。
- (8) 予選審査における動画の撮影ルール等の取り扱いは、別途提示する。なお、予選審査に複数の演技内容の動画を提出することは認めない。
- (9) 舞台上の演技者が演技の主体となるように構成すること。なお、演技者とスクリーンの視聴は両立しないことを前提に、あくまで演技者に観客の目を向けさせるような構成に努めるとともに、スクリーンの使用は字幕の表示を中心に、画像の使用を必要最小限とすることが望ましい。
- (10) 歌唱を行う際は、発話が困難な場合を除き、CD音源や事前収録した音源を歌唱に利用する（いわゆる口パクやかぶせ）のではなく、自ら発声する方法で本番（予選審査を含む。）に挑戦してほしい。なお、CD音源や事前収録した音源の歌唱利用を禁止するわけではないので、申し添えておく。
- (11) 本大会において演技中にCD音源を使用する場合、当日会場でのCD音源使用に係る著作権対応は主催者で行う。なお、インターネット（YouTube）で後日公開する映像については、著作権者の許可が得られないものは、CD音源部分の音声（歌唱やセリフ等）を消去する。
- (12) 演技時に自チームの完全なオリジナル作品ではない著作物を引用等する場合（シナリオや美術道具、ダンス等）は、会場での上演や、本大会当日のライブ配信、大会後の演技映像の公開にあたって、著作権を侵害することのないよう自チームにおいて事前に対処しておくこと。なお、音楽については(11)のとおりだが、楽曲の改変（歌詞を変えたり、編曲するなど）に該当する場合は、著作権者の許可が必要となるため、自チームにおいて対処しておくこと。

11. 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査会4名、本大会6名から構成し、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、参加申込みチームが提出した演技動画を視聴する方法により、審査員が行う。
- (4) 予選審査会及び本大会の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

12. 参加申込み方法

- (1) 申込期間 令和2年5月18日(月)から7月3日(金)まで【必着】
※予選審査動画の提出期限は、令和2年7月17日(金)まで【必着】
- (2) 提出資料 別紙のとおり
- (3) 補足事項
 - ア (2)の書類は、13.の申込み先まで指定する方法及び期限に沿って提出すること。
 - イ 本大会における参加者の個人情報等については、別添のとおり取り扱うので、同意の上、参加申込みを行うこと。
 - ウ 予選審査用の演技動画の提出期限は、令和2年7月17日(金)までとする。まずは、(1)の期間中に参加申込みを行うこと。
 - エ 参加申込み及び予選審査動画は、各期限日必着とする。資料は期限日までに余裕を持って提出するよう努めること。なお、資料送付した際、その旨を大会事務局に電話連絡すること。
- (4) その他
各学校と各都道府県聴覚障害者協会（以下「協会」という。）との関わりが生まれる契機となるよう、参加申込みした旨を協会に情報提供することが望ましい。

13. 申込み先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目 220 番地
手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局
(鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課内)
電話：0857-26-7682 FAX：0857-26-8136 Eメール：s-koushien@pref.tottori.lg.jp

14. 参加料 不要

15. 助成金

出場チーム(生徒、引率者)に、次のとおり交通費、宿泊費の一部を助成する。なお、助成申請方法等については、別途事務局が示す手続きによること。

- (1) 交通費(領収書等必要)
実費相当額を助成(1チーム当たり250,000円を上限とする。)
- (2) 宿泊費(領収書等必要)
実費相当額を助成(1チーム当たり85,000円を上限とする。)

16. 表彰

表彰は次のとおりとする。

- (1) 優勝(賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。)
- (2) 準優勝(賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。)
- (3) 3位(賞状、メダル、副賞を授与する。)
- (4) 審査員特別賞(賞状、副賞を授与する。)
- (5) 全日本ろうあ連盟賞(賞状、副賞を授与する。)
- (6) 日本財団賞(賞状、副賞を授与する。)
- (7) 鳥取県聴覚障害者協会賞(賞状、副賞を授与する。)
- (8) その他、上記受賞チーム以外全ての本大会出場チームに手話パフォーマンス奨励賞を授与する。

17. 予選審査会

- (1) 日程 令和2年7月30日(木)及び31日(金)
- (2) 場所 鳥取市内
- (3) 内容 参加申込みチームが提出した予選審査動画の視聴により審査を実施し、本大会に出場する15チームを選出する。
- (4) 結果 令和2年7月31日(金)に審査結果発表会を公開して行う(インターネットでライブ中継あり)。なお、発表会終了後、公式ホームページ上に審査結果を掲載する。
- (5) その他 上記(4)の審査結果発表会の際に、本大会の各チームの演技の順番及び選手宣誓を担当するチームを抽選で決定する。(本大会出場チーム発表後に、抽選を行う。)

18. 交流会

- (1) 日 時 令和2年9月26日(土)
午後6時から午後8時まで(時間は予定)
- (2) 場 所 鳥取看護大学・鳥取短期大学シグナスホール(鳥取県倉吉市福庭 854)
- (3) 内 容 出場チームや大会関係者等が一堂に会し、食事を交えて交流を深めるもの。
- (4) その他 参加者の交流を深める目的であることから、原則として参加すること。(参加費は不要。)

19. スケジュール

令和2年(2020年)

- | | |
|----------|---|
| 1月31日(金) | 本大会の開催決定 |
| 2月下旬 | 開催要項等公表 |
| 5月18日(月) | 参加申込み受付開始 |
| 7月3日(金) | 参加申込み締切 |
| 7月17日(金) | 予選審査動画の提出締切 |
| 7月30日(木) | 予選審査会 |
| 7月31日(金) | 予選審査会、審査結果発表(結果発表、本大会演技順及び選手宣誓チームの抽選決定) |
| 8月28日(金) | ヒアリングシートの提出(演技内容の詳細(シナリオ・楽曲等)の報告) |
| 9月26日(土) | リハーサル、交流会 |
| 9月27日(日) | 本大会 |

20. その他

- (1) 本大会前日に本大会と同会場ですべてのチームがリハーサルを実施する。なお、各チームのリハーサルのスケジュールは、会場までのアクセスや本大会の発表順等を考慮して事務局にて指定する。また、できる限りの配慮は行うが、当日の午前中からリハーサルを実施する関係で、本大会前々日から宿泊が必要となる場合もあるので、承知すること。
- (2) 高校生による手話言語の祭典であるという観点から、演技時だけではなく、演技後のインタビュー時の応答や、交流会での各チームの発表、その他様々な発表の機会や交流の場面においても、各自ができる範囲で、積極的に手話言語の使用に挑戦してほしい。
- (3) 受賞チームは、本大会閉会后、可能な限り報道機関等のインタビューに応じること。
- (4) 本大会の演技は、後日、手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル(YouTube)上に、全て公開する。
- (5) 本大会出場チームが確実に宿泊できるよう宿泊先の斡旋を行う予定。(利用は任意)
- (6) 引率代表者は、事務局との連絡調整を担当すること。なお、主に電子メールにて頻繁に連絡等を行うこととなるため、参加申込み後は小まめに電子メールの受信を確認するよう努めること。
- (7) 本大会出場チームには、予選審査結果発表後に各種資料等の提出をお願いすることとなる。この時期が夏休み及びお盆期間と重なるので、引率代表者は事務局及びチーム内の円滑な連絡調整ができるよう留意すること。
- (8) 予選参加申込み及び本大会出場に係る事務局への提出物は、返却しない。

令和元年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支予算書

(1) 収入の部

(単位:円)

科目	予算	補正額	補正後 予算額	主な補正理由	備考
助成金	30,000,000	0 ※下記差額参照	30,000,000		日本財団助成金(対象事業費80%) ※精算に伴う実績減分3,360千円は次年度に繰越後返還
負担金	15,120,000	△ 2,710,728	12,409,272	精算(実績見込)に伴う減	鳥取県負担金(対象事業費20%+お成り経費(県独自)+第7回大会広報費(県独自))-諸収入)
協賛金	1,950,000	△ 44,000	1,906,000	精算(実績見込)に伴う減	協賛金
手数料	180,000	12,676	192,676	精算(実績見込)に伴う増	応援自販機手数料
雑入	100,000	△ 6,920	93,080	精算(実績見込)に伴う減	寄付金、預金利息
繰越金	1,137,037	0	1,137,037		H30年度からの繰越金
合計	48,487,037	△ 2,748,972	45,738,065		

※負担金は、県が独自に収支しなければならない部分を勘案し、日本財団80%、県20%となるよう設定済み

(2) 支出の部

科目	予算	補正額	補正後 予算額	主な補正理由	備考
実行委員会運営費	700,000	△ 170,025	529,975	精算(実績見込)に伴う減	実行委員会の開催経費等
広報宣伝費	5,087,037	△ 1,375,817	3,711,220	精算(実績見込)に伴う減	TV番組制作委託、広告、チラシ・ポスター制作費等
大会開催費	11,175,000	△ 2,517,375	8,657,625	精算(実績見込)に伴う減	会場使用料、出場チーム旅費等助成、表彰物品等
大会運営委託費	31,525,000	△ 2,045,755	29,479,245	精算(実績見込)に伴う減	大会企画運営委託業務(大会運営・広報物制作・出演者等経費)等
合計	48,487,037	△ 6,108,972	42,378,065		

差額	3,360,000
----	-----------

→ R2年度の日本財団の監査後に返還する助成金として次年度に繰り越し

第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程（予定）について

令和2年1月31日現在

日程	内容	備考
令和2年1月31日(金)	R1 実行委員会総会	第7回大会開催決定、基本計画、R1 補正予算 等
令和2年2月17日(月)	R1 企画推進会議	第7回大会開催要項、予選審査・選考実施要領等
令和2年2月下旬	第7回大会の開催要項公表	
令和2年3月～4月	実行委員会(書面会議)	R2 年度収支予算及びR1 年度収支決算
令和2年3月～	第7回参加募集広報(チラシ、ポスターの送付等)	・全国の高等学校、特別支援学校等、各都道府県、政令指定都市、手話言語条例制定自治体、各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体、県内各市町村等
令和2年4月～7月	手話パフォーマンスアドバイザー派遣募集、派遣	
令和2年5月18日(月)	参加申込み受付開始	
令和2年7月3日(金)	参加申込み期限	
令和2年6月～7月	R2 企画推進会議 情報保障コーディネートチーム会議	第7回大会実施計画等
令和2年7月17日(金)	予選審査動画の提出期限	
令和2年7月30日(木) 7月31日(金)	予選審査会 結果発表	動画審査、結果発表、本大会演技順番・選手宣誓チームの決定
令和2年8月	企画推進会議委員への予選結果等の報告又は企画推進会議開催	必要に応じて会議開催等
令和2年8月28日(金)	ヒアリングシートの提出	演技内容の詳細(シナリオ・楽曲等)の報告)
令和2年9月26日(土)	第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園リハーサル、交流会	リハーサル:倉吉未来中心 交流会:鳥取看護大学・鳥取短期大学シグナスホール
令和2年9月27日(日)	第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園本大会	倉吉未来中心
令和2年10～11月	R2 企画推進会議 情報保障コーディネートチーム会議	第7回大会開催結果の報告、第8回大会開催案の検討等
令和3年1～2月	R2 実行委員会総会	第7回大会開催結果の報告 第8回大会開催決定、第8回大会基本計画、等
令和3年2月	R2 企画推進会議	第8回大会の開催要項、予選審査・選考実施要領等

